

課題名

20. ビワ樹体への除草剤（ハービエース水溶剤）の薬害

成果概要

- (1) 茎葉処理では、散布後3～4日目には新葉に褐色の斑点を生じ、処理後1週間後には全ての新葉が落葉した。
- (2) その後、新葉の発生が見られ、6月20日調査時では、処理前よりも新葉数は増加していた。
- (3) 旧葉も、処理後10日目位より、落葉が激しくなり、6月20日調査時での落葉率は、無処理区に比べ非常に高かった。
- (4) 土壌処理では、樹体への薬害の発生は認められなかった。

ビワ樹に対するハービエース水溶剤の影響（薬害）

処理区	薬害	4/26着葉数		6/20着葉数		葉数増減率	
		旧葉	新葉	旧葉	新葉	旧葉	新葉
処理方法	薬量	発現日	(枚)	(枚)	(枚)	(枚)	(%)
	(ml/a)	(日)					
茎葉処理	60	4～5	19.5	19.0	3.0	20.0	-84.6 +5.3
土壌処理	60		22.0	14.5	17.0	84.0	-22.7 +479.3
土壌処理	300		39.5	21.5	22.0	68.0	-44.3 +216.3
無処理	—		22.0	25.0	15.0	79.0	-31.8 +216.0

成績

注) 葉数増減率:  $\frac{6/20 \text{ 葉数} - 4/26 \text{ 葉数}}{4/26 \text{ 葉数}} \times 100$

概要

\*. ハービエース水溶剤は、平成2年に雑草防除基準に採用

概要

<p>成 績 概 要</p>	<p>(果樹試験場)</p>
<p>普及上の留意点</p>	<p>除草剤散布に当たっては、薬剤が直接、樹体に飛散しないように専用のノズル、もしくは動噴の圧を低くし、散布する。</p>